



新潟県作業療法士会ニュース

朱鷺

No. 9

「第1回新潟県リハビリテーション 専門職学術大会」開催決定

副会長 児玉信夫

ずいぶん昔の話になりますが新潟県ではリハビリテーション3職種の合同研修会が行われていました。時代の流れとともにその会はなくなり、それぞれの職種が専門性を高めるべく研鑽を続けてきました。近年、専門職協議会が立ち上がり3職種のつながりの大切さが再認識され、連携して地域包括ケアシステムに立ち向かい始めたところです。そんな中「3職種合同の学会を行うのはどうか」といった話がどこからともなく浮上してきました。当初OT士会は2020年の全国学会が終わってからを希望していましたが“鉄は熱いうちに打て”ということで来年度に第1回を開催することになりました。第1回ということで準備委員会を立ち上げ企画を練っているところですが、現在決定している内容を以下にお示ししますので是非予定していただき積極的に他職種と交流していただけたらと思います。他の学会を覗くことができるチャンスです。会員発表も予定しています。OTのみの学会と違って他職種の方々から聴講していただきフィードバックをいただけるという貴重な時間になると思います。

日程：2019年12月14日(土)～15日(日)

場所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

テーマ：「連携」から「連動」へ

【学会テーマについて】

多職種連携や連携室など「連携」という言葉はよく使われる言葉ですが「連動」という言葉はあまり耳にしないのではないのでしょうか。今回準備委員会では連動というワードに「互いに連携して動き出す」あるいは「互いに連携して何かを動かす」といった能動的な意味を込めました。自ら動き出すことが最大のテーマです。参加を検討するのであれば一歩踏み出して参加を決めてみてください。発表を検討しているのであれば勇気を出して発表してみてください。一人一人の勇気が“動き”を生み出し、必ず「連動」につながると信じています。

地域ケア個別会議の現状

地域包括ケアシステム推進委員会

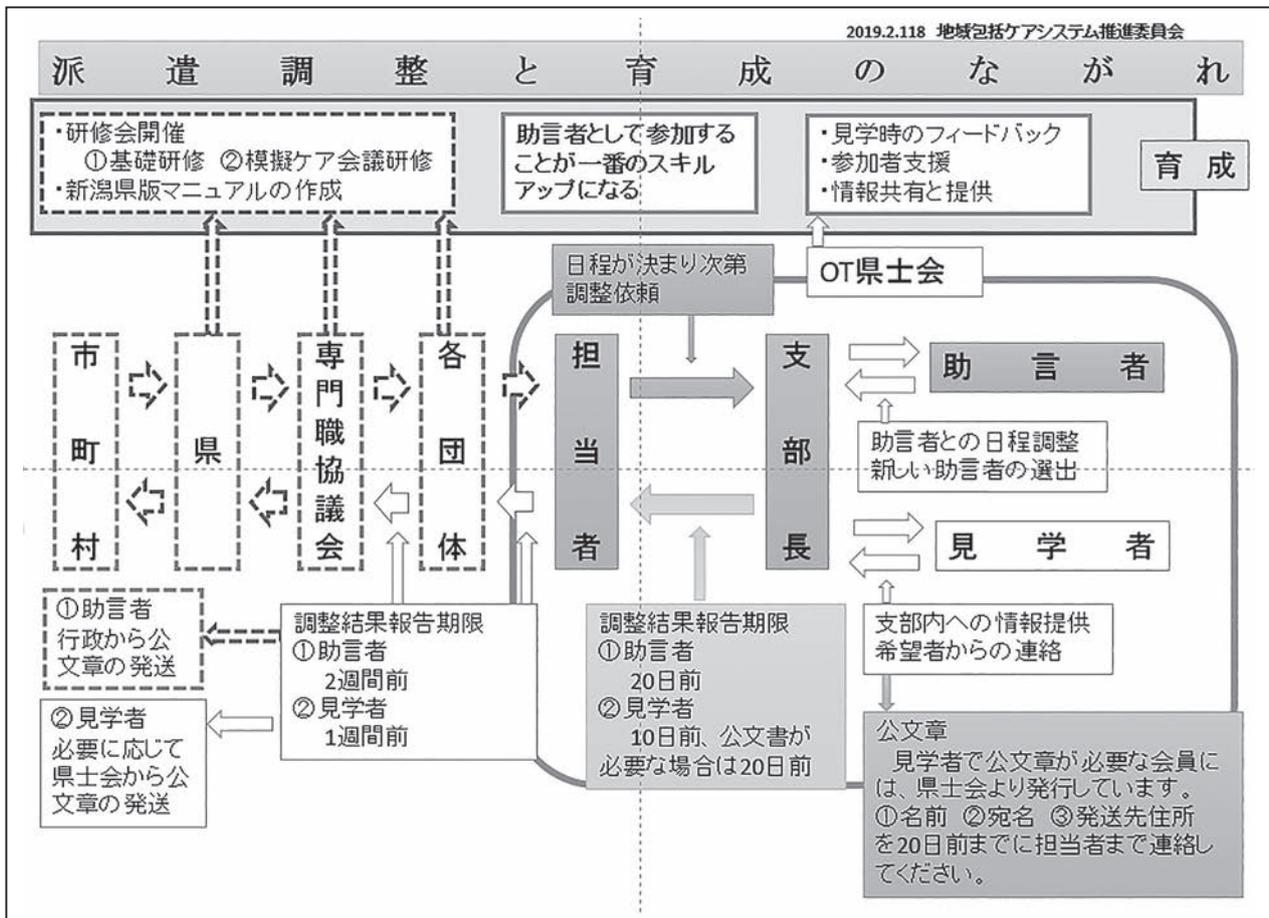
新潟県では、県内各市町村における地域ケア個別会議開催について、助言者として専門6職種（作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、薬剤師、栄養士、歯科衛生士）の派遣を基本方針として示しています。

2019年4月以降は、多くの市町村での開催が予測されています。そのような背景を基に専門職6団体で「新潟県地域包括ケア支援専門職協議会」が発足し、地域ケア個別会議へ派遣する各専門職の助言者調整や体制づくり、助言者の育成、県民向け広報活動等を実施しています。

今回は、2019年2月現在の県士会の派遣調整について、簡単に図式化したものを下記に示しました。助言者として参加に興味のある方は、各地区の支部長、または県士会へご連絡いただけますと、参加に向けてフォローをさせていただきますのでご連絡ください。

※2019年2月1日現在、協議会を通じて派遣調整している市町村は以下の通りです。

新発田市、胎内市、十日町市、弥彦村、三条市、村上市、小千谷市、魚沼市、阿賀町、五泉市
上記以外にも、各市町村で実施している場合もあります。



臨床実習指導者研修会（中級・上級）に参加して

臨床実習推進委員会 担当理事 北上 守俊、能村 友紀

平成30年11月23日（金）～24日（土）に麻生リハビリテーション大学校において臨床実習指導者研修会（中級・上級）（以下、本研修会）が日本作業療法士協会主催で開催され、その研修会に参加してきた。今年度は同様の研修会が全国9箇所で開催された。本研修会は、平成32年度の入学者から適用となる理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則（以下、指定規則）の改正に伴って、実習指導者になる要件として受講が必要な研修会である。本研修会の中で主催者が特に強調して説明されていた2点について下記に示す。

【臨床実習の時間数】

レポート課題の作成や予習等も含め **1単位（1週間）45時間**の中で臨床実習を構成していくことが指定規則上の基本である（45時間の内訳例：1日の中で実習施設内での実働時間8時間+自宅学習1時間=1日の実習時間9時間。1日の実習時間9時間×実習5日間=45時間）。

【臨床実習の基本的な考え方】

実習指導者の指導・監督の下、実習指導者の基本的態度・臨床技能・臨床思考過程について、実習指導者をモデルとして修得していく実習形態を取る（作業療法参加型臨床実習）。実習指導者は、作業療法士がどのようなことを考えながら対象者と向き合っているかに重きを置いて学生指導を行ってほしい。つまり、作業療法士の臨床思考過程を学生に伝えることに重点を置く実習形態を望む。

本研修会は、講義だけでなくグループでの演習が多く含まれていた。実習指導者と養成校教員など様々な立場の方と意見交換をする貴重な時間であった。今後、より多くの方に本研修会を受講していただけるように県士会でも開催準備を進めていく。

今回の指定規則改定を機に、各人が経験してきた臨床実習の形態を学生に求めるのではなく、今の時代に即した臨床実習のあり方を考える時期に来ていると思う。

最後に、**作業療法臨床実習指針（2018）作業療法臨床実習の手引き（2018）**が日本作業療法士協会のホームページにアップされている。お読みいただければ幸いです。



「REHUGって何?? 新潟県の災害準備」

災害対策委員 新潟県立燕労災病院 馬場 晃一

災害対策委員長 岩室リハビリテーション病院 齋藤 裕久

皆さんは“REHUG”という言葉をご存知でしょうか？

恥ずかしながら、私は今回災害対策委員にならなければ災害リハのことを考えることはなくREHUGという言葉を目にするともなかったと思います。

REHUG：「大規模災害リハビリテーション支援チーム本部運営ゲーム」

Re「何度も」 HUG「抱きしめる」から命名

2016年熊本地震における本部運営の経験を基に作られました。災害が起こった現場で、支援者やボランティアが好き勝手に動き回ると、現場の混乱を招きます。そのため、統括する支援本部を立ち上げます。REHUGは本部の運営を、ゲームを通して学ぼうというものです。

※本部運営の役割…情報収集と判断（災害規模の把握や支援団体の役割分担など）

記録（活動記録や福祉用具等の貸与記録など）

支援者の采配（外部支援者の管理・衣食住の世話・マニュアル作成）etc.

私は昨年11月に「第4回新潟県災害リハビリテーション研修会」に参加し、REHUGを体験しました。研修にはリハ職以外にも医師や看護師、保健師に消防隊、臨床工学技士など様々な職種が参加していました。

そこでまず感じたことが、「意外に参加者が少ないな？」ということでした。職種は多いけれど、参加者合計は16人と少数でした。おそらく、日々の業務から少し離れたところにある災害支援には、意識が向きにくいのだと思います。以前の自分がそうでした。そもそも災害支援は何をするかもわかっていませんでした。

今回ゲームを通して、被災地・避難所での前方支援や、本部でそれらをマネジメントする後方支援があることを学び、そしてこの本部運営の重要性を知りました。

こうした「知る」ことの積み重ねが有事の際に役立つのではないかと思います。

また、組織運営にも応用ができ、日常の業務にもこの経験を生かすことができます。

皆さんも、次回はぜひ参加してみてくださいはいかがでしょうか！

新潟県士会では中越地震・中越沖地震をきっかけに災害支援を開始し、東日本大震災の際には、先の震災経験から組織的な支援体制を作ってきました。その後、県士会以外の団体と連携するため、新潟JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）に加入し、熊本地震や昨年の西日本豪雨の際に会員派遣を行ってきました。現在は、県内で発災した場合に備え、マニュアルの作成や緊急連絡網の作成に取り組んでいます。また、会員の皆様に、平時から災害支援について考えていただけるように、啓蒙活動を行っている段階ですので、広報誌等で見かけた際には是非一読していただければ幸いです。

iOS アクセシビリティ

独) 国立病院機構 西新潟中央病院

リハビリテーション科 渋谷 亮 仁

「アクセシビリティ」という用語をご存知でしょうか？障害を持った人々や高齢者に配慮した、製品やシステムの利用しやすさを意味します。米国では特に電子技術への配慮が法的に義務付けられていますが、日本にもJIS規格があります。今回は身近にあるiOS端末（iPhone、iPad）のアクセシビリティ機能を一部、紹介いたします。

iOSアクセシビリティ「スイッチコントロール」

iPhone、iPadをスイッチひとつで操作できるようになります。

詳しい使い方は右記を参考にしてください。



Apple HP



指伝話 HP

【事例提示】

60歳代、女性、球麻痺型ALS、厚労省の重症度分類5



図1 事例の様子と機器の構成



図2 iPadの画面と使用アプリ

- ・デバイス アジャスタブル ユニバーサルアームタイプ
- ・ポイントタッチスイッチ ・スタンダードアーム
- ・フックプラス (すべて製品名*1で記載)
- ・LINE ・YouTube ・NHKラジオ ・Amazon
- ・メモ ・指伝話 ・Google ・メール
- ・ミュージック ・Google Drive ・Google Earth

口唇の突出でスイッチに触れ、iPadを操作しています。LINEで娘さんと会話をし、YouTubeを観て、Amazonでショッピングを楽しむ。Google Earthで世界旅行にだって出かけます。iPadを含む一般品のアクセシビリティが向上してきたことで、重度障害者であっても私たちと同じように操作ができるようになりました。

新潟市ではスイッチなどの周辺機器のみ、福祉用具として日常生活用具の給付（情報通信支援用具）を受けることができます。iPad本体は一般品とされるため給付の対象になっていませんが、自治体によって判断が異なる場合があるため、詳細は役所の障害福祉課へお問い合わせください。

*1 パシフィックサプライ株式会社ホームページ (<https://www.p-supply.co.jp/>)

なんでも相談！「福祉用具相談支援システム」 皆で工夫をシェア！「生活行為工夫情報モデル事業」

知らなきゃ損！ 福祉用具の相談・事例の閲覧に特化したWEBシステム！

新潟県作業療法士会では、日本作業療法士協会が運営する「福祉用具相談支援システム」と「生活行為工夫情報モデル事業」に参画しています。「初めて聞くなあ・・・」と思う会員も多いかもしれませんが、実はカンタンに利用できて、すぐに臨床に活かせる便利なシステムです。

福祉用具相談支援システムとは？

福祉用具の適応・選定・適合に関する相談と情報収集ができる会員むけのWEBシステムのこと。

「誰かに福祉用具のこと相談したい！」「何か良い製品はないかな？」「適切な道具は何だろう？」そんな困ったときは、お気軽に福祉用具相談システムをご利用ください。身近で経験豊富なアドバイザーが、WEBを通して皆さんの相談にお応えします！

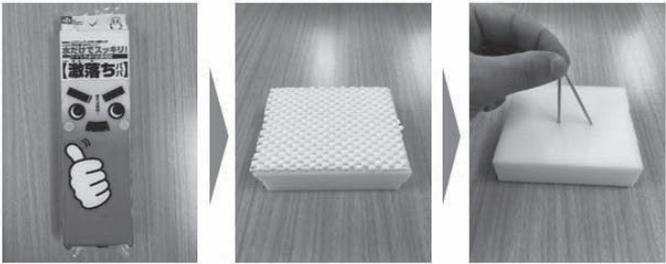
生活行為工夫情報モデル事業とは？

新潟県内の作業療法士が行っている様々な工夫を集め、情報発信する事業のこと。WEB上で、実際に活用されている生活行為の様々な工夫をみんなで「登録」「シェア」できます。これまで県内で登録された工夫事例は、**119事例**になりました。今サイトに登録すれば、すぐに119事例が閲覧できます！

PCでもスマホでもらくらく登録できる！

- ①ネットで検索「福祉用具相談支援システム」
- ②共通のログインIDとパスワードを入力して、ログイン（利用規約画面に移る）
ログインID：yokaot パスワード：otot
- ③利用規約に同意して申請をクリック（利用者登録画面に移る）
- ④利用者情報を入力、確認画面で確認して、利用者登録完了！

(例) 生活行為の工夫情報事例

趣味活動の工夫 (脳梗塞 片麻痺)		趣味活動であるプラモデル製作で困っている右片麻痺の方に作業台を工夫した事例(市販品の改良)	
脳梗塞により利き手である右手を動かせない状態の人が、趣味活動であるプラモデル作成での組み立てで困っているため、市販のスポンジにパーツを刺したり、置いたり、接着するなどの作業台として利用することを提案し、当事者が実践したところその動作がやりやすくなった。			
【利用者・家族の声】 接着・固定がしやすくなった。なかなか出来ないというイライラ感が減った。			
心身機能・構造の特徴	右手は自身では動かせず、左手で右手を机に乗せることで置くことが出来る。左手は、器用で箸操作・書字も可能。		
活動・参加の制限の特徴	片手での作業となるため、プラモデル/パーツの固定・接着といった動作が困難であった。		
工夫したポイント	使用中滑ってしまうため、滑り止めをつけた。スポンジに切り込みを入れ、刺しやすく・固定しやすいようにした。		
利用上の留意点 (注意点、デメリット等)	接着の際、慣れていないと作業台とパーツがくっついてしまう恐れがある。		
使用した製品	商品名(材料名)	激落ちくん	
	入手先・価格	600円	
備考			

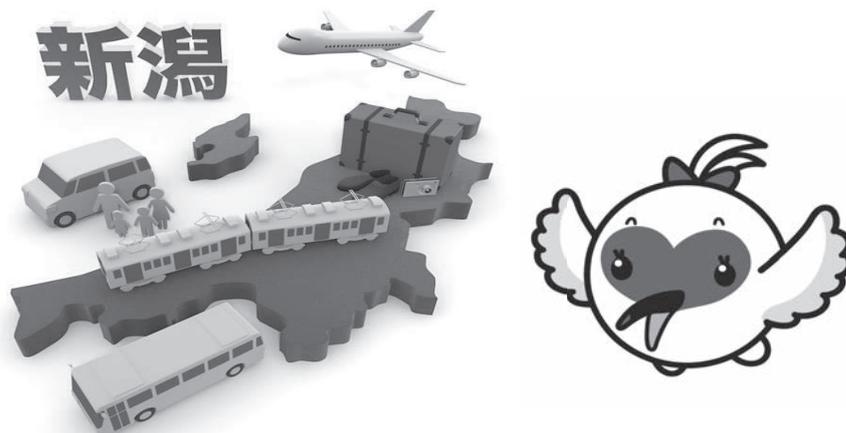
第14回

日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in にいがた

テーマ

トキめく訪問リハビリテーション

～その扉を開けたあなたへ～



これまで13回行われてきた日本訪問リハビリテーション協会学術大会、新潟で初めての大会が行われます。今大会は訪問リハビリテーションの扉を開けて間もない療法士が、ここ新潟において様々な知識、技術を身に着け、その翌日から即、実践することによって、ご利用者様、患者様、ご家族様の生活の質のドラマティックな改善を実現し、その姿に“トキめき”を感じられるように、そして何よりも、ご利用者様、患者様、ご家族様が、ご自宅の扉を私ども訪問療法士に開けてくださったことによって、ご自身の生活、人生に再び、“トキめき”を感じられるように、そのような願いを込めて、この度の学術大会のテーマを「トキめく訪問リハビリテーション — その扉を開けたあなたへ — 」と致しました。

一般演題も160演題ほど集まりました！充実した2日間になるよう、実行委員会一同準備を整えております。会場でお会いできることを楽しみにしております。ぜひご参加ください。

大会長 三村 健



会場

朱鷺メッセ（新潟市中央区万代島6-1）

大会長

三村 健（株式会社ケアライフ新潟 ケアライフ訪問看護リハビリステーション）

実行委員長

小林 真依（新潟勤労者医療協会下越病院 訪問リハビリテーション）

【運営事務局】

株式会社プロコムインターナショナル

〒135-0063 東京都江東区有明3丁目6番地11 TFTビル東館9階

TEL : 03-5520-8821 FAX : 03-5520-8820 E-mail : houmonreha@procomu.jp

平成30年度 第5回理事会 議事録

日 時：平成31年1月26日(土) 11:00~15:30

会 場：新潟県作業療法士会事務局

出席者：四方、児玉、菊入、伊東、尾崎、小山、門脇、
北上、佐藤、高頭、村山、吉井、石井(以上
理事)、水越、横田(以上監事)、片桐(書記)

欠席者：貝淵、一ノ本、松本、松岡、能村(以上理事)

〈報告事項〉

1. 会長報告

- ・特別支援学校校長会出席：今後、学校支援については広がる可能性あり、準備を進める。
- ・養成校会議出席：臨床実習指導について協議。協力して指定規則改定に沿った臨床実習指導の準備を進める。

2. 事務局報告

- (1) 会員管理(平成31年1月現在)
会員数1,004名(休会47名含む)：
入会4名、復会0名、休会15名、退会3名 ⇒承認
- (2) その他
 - ・協会を通して個人から福祉機器について相談あり。
 - ・養成校の式典(卒業式、入学式等)について、予定を確認し出席者調整を図る。

3. 理事報告

県心神喪失者等医療観察制度運営協議会(門脇理事)
菊入副会長と参加。来年度以降は作業療法士会も協議会メンバーとして認められ、参加の予定。

精神分野推進委員会(門脇理事)

新潟県内の精神科OTのネットワーク構築、臨床の質の向上のためSIG設立を目指す。

精神分野地域移行推進委員会(門脇理事)

地域移行については作業療法士の参画が強く求められている。それに応えられる作業療法士の育成が課題。来年度は全県ではなく、圏域で研修が実施される予定。研修に企画から参加していく予定。

県高次脳機能障害支援拠点運営委員会(北上理事)

依頼増えているが、コーディネーターが限界。

当事者の集いを年1から3回へ。

臨床実習指導者研修会(石井理事・北上理事)

運営に当たっては、原則、協会主催だが、養成校と県士会が協力して開催していく。

次回47委員会で詳細を提示される予定。

32年度からの指導者研修会開催となる。32年度は50名定員で2回開催の見込み。

1週間の実習時間は40時間以上45時間以内。

実習形態について、診療参加型臨床実習とMTDLPを取り入れる。

指導者研修会の予算に関しては、協会からの支出見込みなし。講師は研修修了者より選出、協会からの講師派遣の可能性あり。

47委員会精神科WGコアメンバー会議(菊入理事)

精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムへ

寄与できる精神科OTの育成が目標。

来年度は埼玉、京都で研修開催予定。再来年度に新潟開催の予定。

生涯教育委員会(佐藤理事)

受講電子管理システム2020年4月開始に延期。

Eラーニング化のアンケート予定あり。

広報戦略委員会(尾崎理事)

新パンフレット18400部印刷、12月定期便に同封。関係諸機関などに対して積極的に活用してほしい。

生活行為向上マネジメント推進委員会(小山理事)

30年度実践者研修参加者6名

基礎研修修了者で、実践者研修未受講の人が多く存在しており、実践者研修修了者を増やせるよう周知を強化する。

福祉用具対策委員会(小山理事)

生活行為工夫情報モデル事業、今後も継続の予定。PL法に関する課題は解決された。

地域包括ケアシステム推進委員会(村山理事)

認知症アップデート研修～応用編～参加者44名。

経験年数によって抱える課題の違いがみられた。

自動車運転対策委員会(村山理事)

パンフレットを作成予定、各自自治体に配布予定。

来年度の研修は自動車運転評価だけでなく、移動手段全般の支援をマネジメントできること目的に開催予定。

新潟市・茶の間派遣事業(吉井理事)

来年度も事業継続の予定。

派遣会員へのアンケートを実施する予定。

次年度：吉井理事→松岡理事が担当見込み。

特別支援教育委員会(伊東理事)

学校訪問事業、2校への派遣決まっている。

対象児童が病院ですでに作業療法を受けている場合、医療機関からの派遣も確認し連携を進める。

新潟県リハビリテーション専門職学術大会(児玉理事)

大会テーマ：「連携」から「連動」へ。

2022年(全国学会2年後)は、当会が主となる。

〈協議事項〉

1. 31年度、事業計画及び予算について

●公益事業

学会運営：来年度学会、ハイブ長岡にて開催予定。

学術誌編集：査読委員への謝金は見送り。

現職者共通：例年通りの内容。

現職者選択：例年通りの内容。

臨床実習：再来年度の臨床実習指導者研修開催に向け、講師養成のため研修参加予算計上。

生涯教育：受講電子登録用PC購入の予算計上。

MTDLP：実践者研修2回開催予定。実践者研修修了者を増やすことを主眼に展開する。

会員向け広報：例年通りの予算。

公開講座：学会に組み込み、予算なし。

企画戦略：OT紹介パネル作成の計画を追加。

地域向け広報：高校生職場体験について、HPに受け入れ先掲載、随時申し込みとなる。

地域包括ケア推進：支部長への説明会を県内7か所

で計画。地域包括ケア支援専門職協議会(6職種)立ち上がり、来年度も研修と県民向けフォーラムを開催予定。6職種研修とフォーラム開催などに関する予算は基金より。6職種会議出席の交通費は当会予算より支出。

地域包括ケア(茶の間):新潟市の派遣事業は次年度も継続予定、収入は同額。

特別支援:学校への派遣を18回計画。交通費、日当などの支出基準について三役にて検討。

障害福祉対策:研修会を1回開催の計画。

精神分野推進:会議への出席3名分旅費計上。

保険:例年通りの計画。→執行率鑑み再度検討。

災害対策:人材育成目的にJIMTEF研修希望者(委員)への助成金(1名分)を計画。連絡網整備について支部長へ説明の予定。

自動車運転対策:研修会開催、アンケート調査など計画。

新潟県リハ専門職学術大会:講演、会場などOT担当分で概ね算出。支出、収入については今後、按分方法詰める。

レッツリモコン普及:貸し出しとアンケート実施。

●法人事業

広報誌:「朱鷺」発刊は例年通り。

規約、倫理:合同会議のみ

表彰:31年度表彰予定者3名分を予算計上。

福利厚生:例年通りの内容。

事務局:生涯教育電子登録に伴いWi-Fi化予算計上、電子登録延期となっており、予算を確認。雑費としてプリンター・ファックス廃棄処分費用計上。選挙と登記に関連予算計上なし。

理事・監事:理事会日程、8月3日は予定変更検討。理事会参加率で支出変動あり。

財務:委託費、公益法人に関する提出書類作成業務(さくら会計)を追加。

総会:総会運営に加え、総会時研修の予算を計上。

選挙:選挙予定なし、合同会議のみ。

2. 県士会表彰推薦について

・役員表彰 横田 剛氏

・功労表彰 田中真由美氏、鈴木明美氏

以上3名を推薦し、承認された。

3. 平成31年度 臨床実習指導者研修会・県士会からの推薦者について

・臨床実習指導者研修講師候補者推薦を北上理事へ。

・臨床実習指導認定者35名+研修会既参加者5名を除き、適任者を推薦。

・現状、認定者35名全員が講師依頼を了承いただけるわけではない。今後、アンケートを実施予定。

4. 協会・災害訓練(2019年2月8日)について

・貝淵理事より後日メールで連絡予定。



SAKAIMed

急性期からの*
ハンドセラピーを*
お手伝いします。

* スプリント *

酒井医療株式会社
新潟営業所
Tel:025-278-4777
www.sakaimed.co.jp

福祉・労災指定
各種車椅子・座位保持装置・ベッド
コミュニケーションエイド・福祉機器一般
介護保険レンタル・介護住宅リフォーム相談

(株) G・T・B
(オーエックス新越)

〒956-0017
新潟県新潟市秋葉区あおば通2丁目28-27
TEL 0250-25-2626 FAX 0250-25-7710
<http://www.gtb-niigata.jp/>

義肢・装具・介護レンタル
ご相談ご用命は弊社にお任せ下さい。

社団法人 日本義肢協会登録・中部125号

 (株)田村義肢製作所

〒950-1151 新潟市中央区湖南21番地11
TEL 025 281-0303
FAX 025 281-0339

介護用品、レンタル・販売
リハビリ機器、医療機器販売

(株)いわしや
悠久堂医科器械店

本 社 TEL 0258-47-1848
新潟営業所 TEL 025-284-6866

施設紹介のページ



医療法人 恒仁会 新潟南病院

リハビリ部 士長 作業療法士 鈴木正芳

当院1978年に新潟市の中央区女池に開院し、2018年11月に隣りの地域の鳥屋野に新築移転しました。現在、PT20名、OT11名、ST9名、事務職員1名が勤務しており、入院、外来、訪問と急性期から在宅までのリハビリを提供しています。疾患別においては、脳血管、運動器、廃用症候群、心大血管、呼吸器といった多様なリハビリに対応できる体制を整えています。特に心臓・血管病に関するリハビリに力を注いでおり、運動療法だけでなく、食事や生活の指導を行い、疾病の再発予防に努めています。また、新病院移転に際し、回復期リハビリテーション病棟が新設され、今まで以上に退院後の生活をふまえたアプローチが実施されています。更に外来での通院リハビリをより多くの方に提供できるよう、新病院のみならず旧病院跡地のめいけクリニックにおいて、2019年2月から外来リハビリを開始しました。美しく改装され、新たな機器が設置されたリハビリテーション室は見違えるようです。

これからも病院の理念である「医療・保健・福祉活動を通して地域社会に貢献し、社会的責任と与えられた使命を全うします。」を心掛けていきたいと思っております。



広報委員会ではこちらに掲載する皆様の作業療法の成果を募集しています！Activityによる作品や利用者様との思い出の写真等なんでもOKです！少しでも興味のある方は下記の連絡先まで!! (次回発行は7月頃を予定しています)

新潟県作業療法士会事務局

〒950-0872

新潟市東区牡丹山3丁目1番11号 三森ビル301号

<TEL> 025-279-2083 <FAX> 025-384-0018

<E-mail> ot-niigata.toki4721@helen.ocn.ne.jp

No. 9 2019年2月28日発行

発行責任者：四方 秀 人

編集責任者：尾 崎 生

発 行：公益社団法人新潟県作業療法士会広報部

〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-5-1

総合リハビリテーションみどり病院

印 刷：株式会社タカヨシ